シンポジウム２（合同）：日本サイコオンコロジー学会

在宅医療におけるがん患者・家族の精神心理的ケア

演題名	「在宅医療継続の障壁となるせん妄に関する研修会」のプログラム開発について

概要

在宅医療の領域において、せん妄は高頻度にみられる精神疾患のひとつである。ただし、医療者にとってせん妄患者や困惑の強い家族へのアプローチは困難なことが多く、患者や家族が本来は最期まで在宅医療を望んでいたにも関わらずやむを得ず入院に至るケースが存在している。よって、せん妄は在宅医療の障壁となる。

対策として、地域への精神科医のアウトリーチが最も有効であるが、マンパワー不足であるため実施可能性は乏しい。従って、訪問診察医や訪問看護師がせん妄の診断及び治療についての知識やスキルを獲得し、また患者や家族の感情に十分配慮しながら適切なインフォームド・コンセントを行うことが重要である。

そこで、われわれは「在宅医療継続の障壁となるせん妄に関する研修会」のプログラムを開発し、実際に岡山県岡山市と宮城県仙台市にてロールプレイを含む研修会を行った。シンポジウム当日は、そのプログラムの内容や、研修会前後でのアウトカム評価などについて、若干の考察を加えて発表する。